

富士山周辺で発生した スラッシュ雪崩による被災状況



国土交通省 中部地方整備局 富士砂防事務所

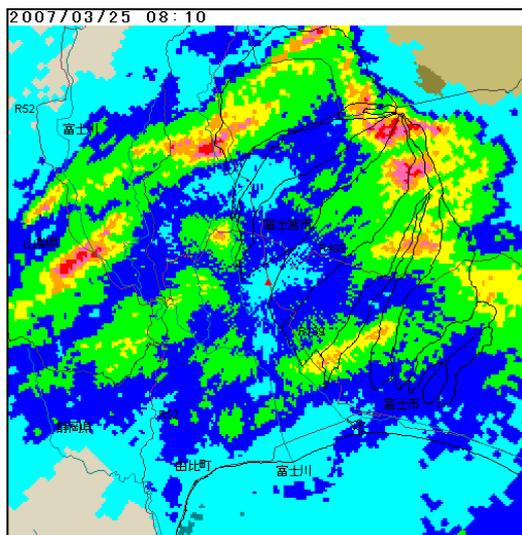
注)この資料は4月5日現在でとりまとめたもので、後日数値等の一部訂正や追加をすることがあります。

1. 気象・降雨状況

(概要)

寒冷前線の通過に伴い3月24日夜から翌朝にかけて管内において激しい降雨となりました。管内には大雨洪水警報が発令され、25日6時に大沢川上流の大滝雨量観測所(標高:1700m)において26mm/hを観測し、降り始めからの総雨量196mm、また、静岡県富士市の二合目雨量観測所(標高:1380m)では総雨量209mmに達しました。

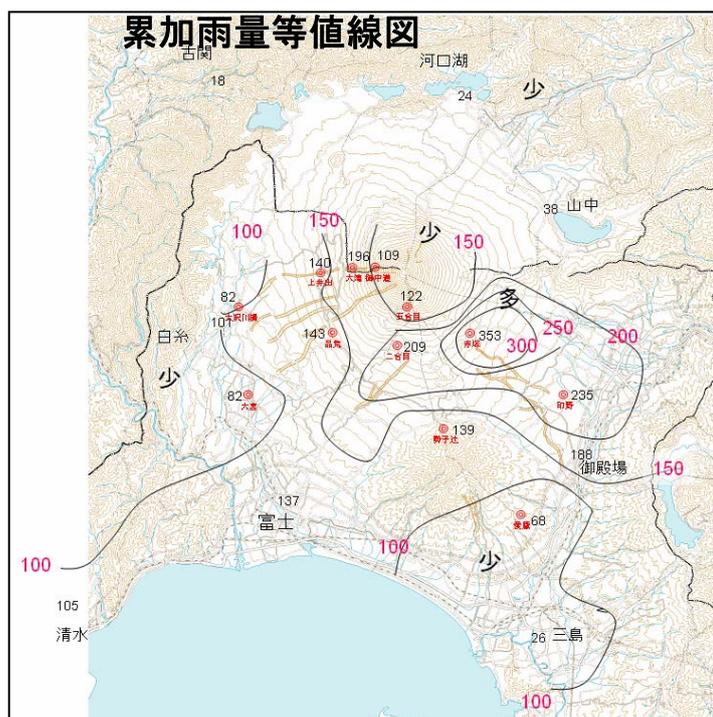
富士砂防雨量レーダ画像(3月25日8時10分)



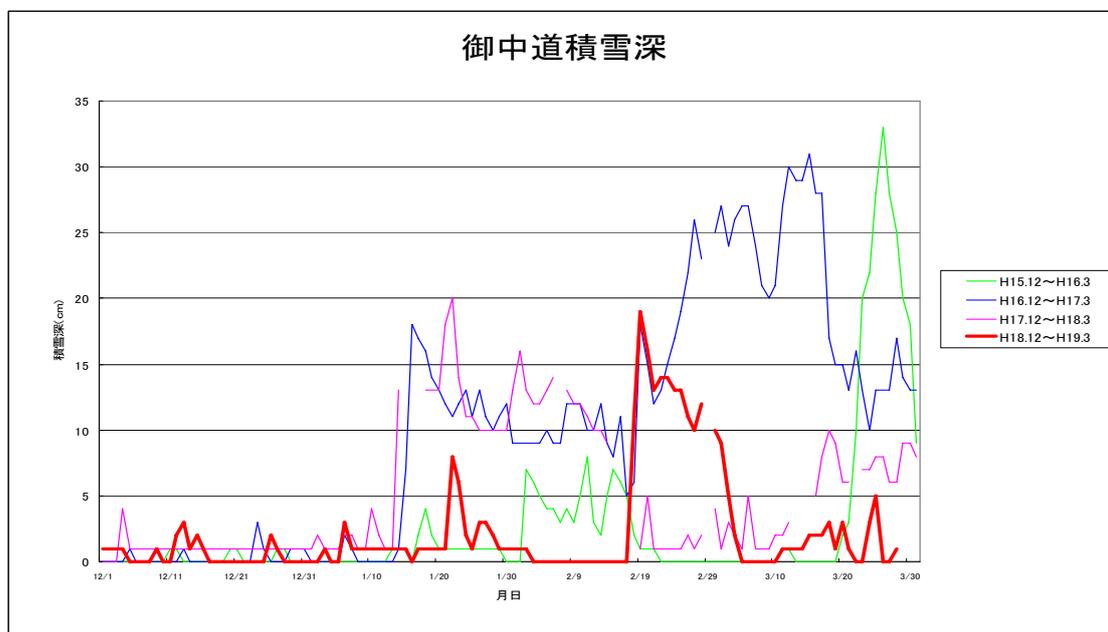
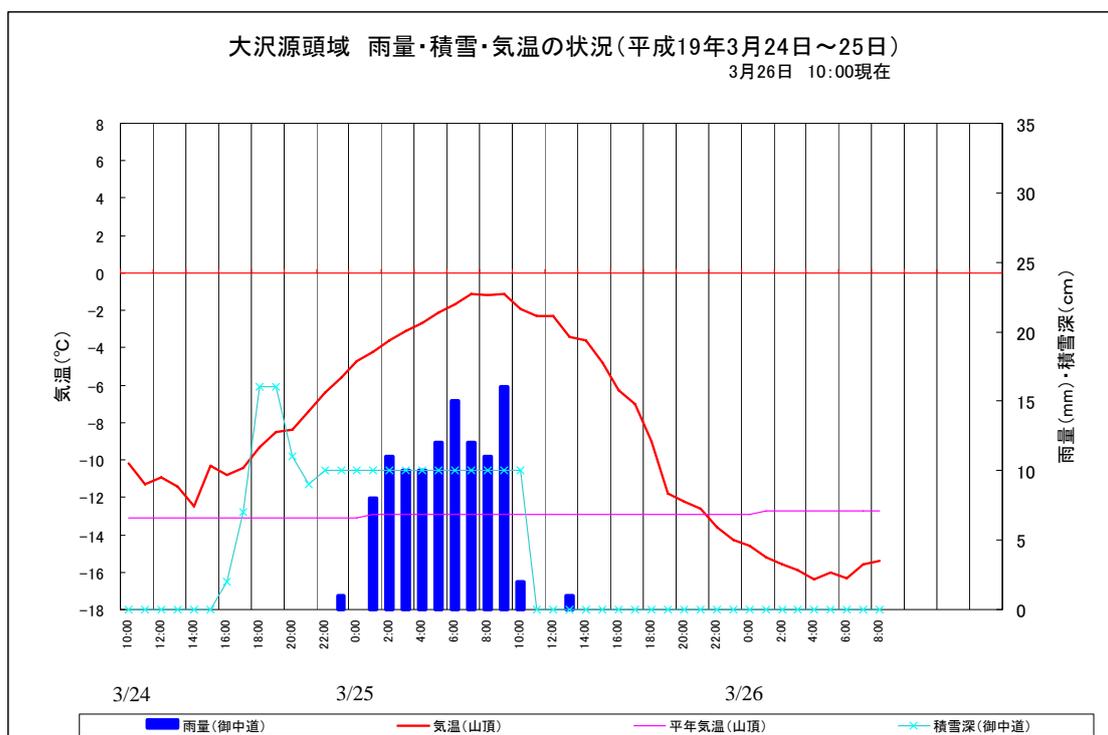
各観測所における総雨量及び時間最大雨量

| 観測所名 | 総雨量(mm) | 時間最大(mm/h) |
|------|---------|------------|
| 御中道 | 109 | 16 |
| 大滝 | 196 | 26 |
| 上井出 | 140 | 21 |
| 大沢川橋 | 82 | 13 |
| 品荒 | 143 | 19 |
| 大宮 | 82 | 8 |
| 二合目 | 209 | 24 |
| 五合目 | 122 | 18 |
| 勢子辻 | 139 | 21 |

富士砂防事務所

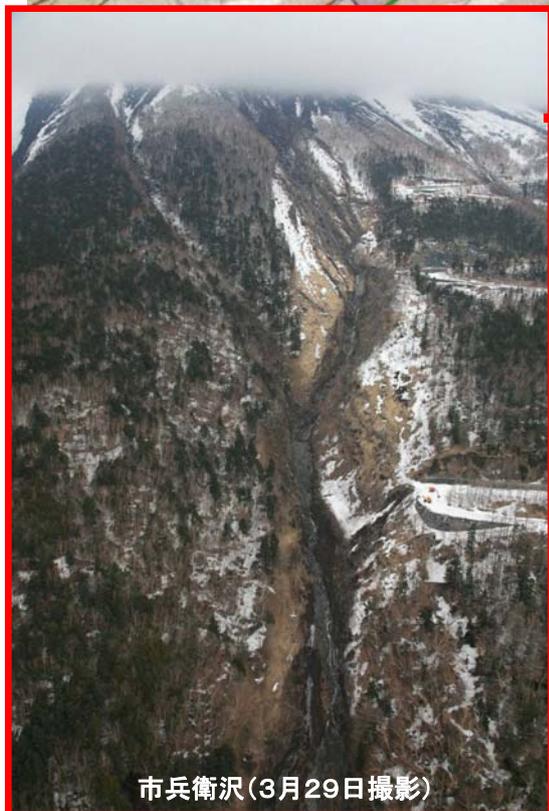


2. 富士山頂気温と御中道観測所における雨量・積雪



御中道観測所(標高:2350m)

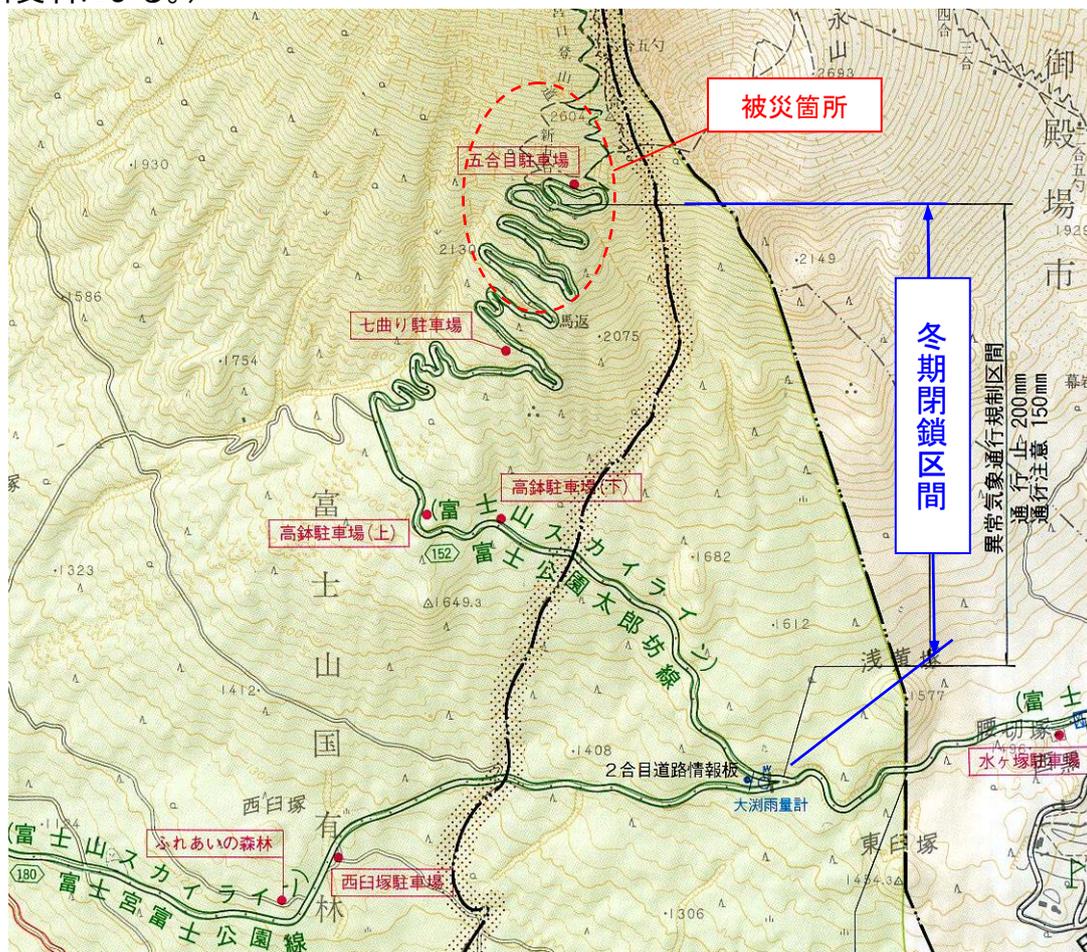
3. スラッシュ雪崩発生状況



専門家からは、直ちに下流へと大きな危険を及ぼす可能性が低いことや、5月頃までは同様な現象に注意が必要であることなどが指摘されています。

4. 被災状況(富士山スカイライン付近)

富士山スカイライン付近では、新五合目にある警察臨時派出所(総合指導センター)が基礎のみを残して流出し、レストハウスの一部が損壊しました。また、14カ所で落石防止金網、落石防護柵、コンクリート擁壁等が被災しました。(富士土木事務所資料による。)



※図面及び写真については静岡県富士土木事務所からの提供資料

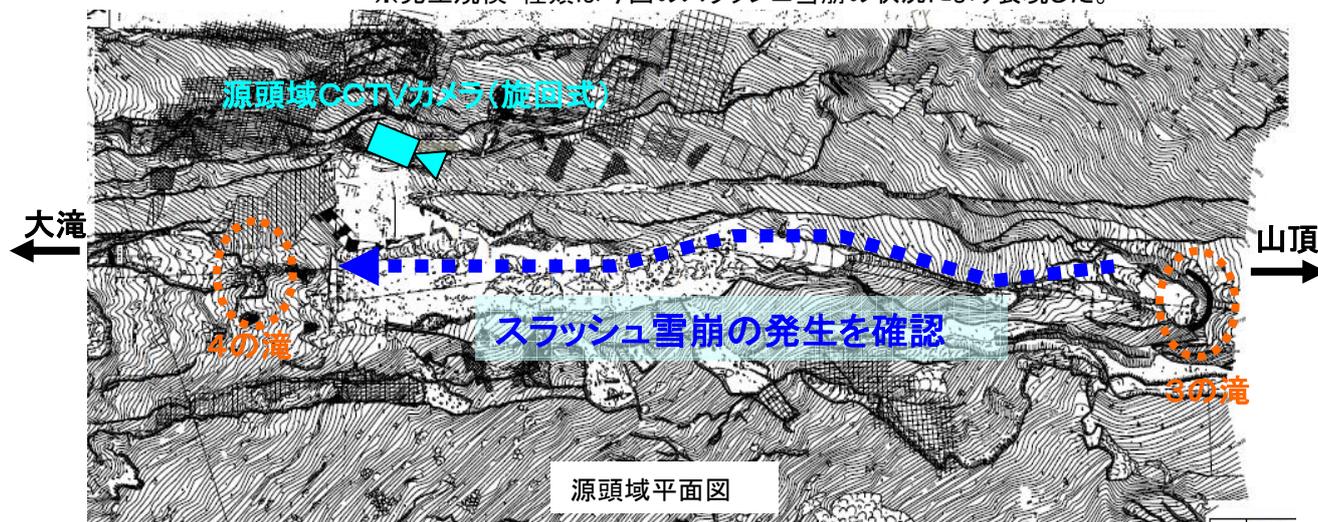
5. 被災状況(大沢崩れ)

大沢崩れのスラッシュ雪崩

今回の降雨により源頭域CCTV(標高2200m)により3の滝～4の滝にかけて計6回のスラッシュ雪崩や流動現象の発生が確認されましたが、下流への被害はありませんでした。

| 発生日時 | 発生規模 | 種類 |
|---------------------|--------|---------|
| 平成19年3月25日 午前 8時 1分 | 比較的大規模 | スラッシュ雪崩 |
| 平成19年3月25日 午前 8時46分 | 比較的大規模 | スラッシュ雪崩 |
| 平成19年3月25日 午前 8時51分 | 比較的中規模 | 流動現象 |
| 平成19年3月25日 午前 9時56分 | 比較的中規模 | 流動現象 |
| 平成19年3月25日 午前11時22分 | 比較的大規模 | スラッシュ雪崩 |
| 平成19年3月25日 午前11時44分 | 比較的小規模 | 流動現象 |

※発生規模・種類は今回のスラッシュ雪崩の状況により表現した。



源頭域CCTV画像

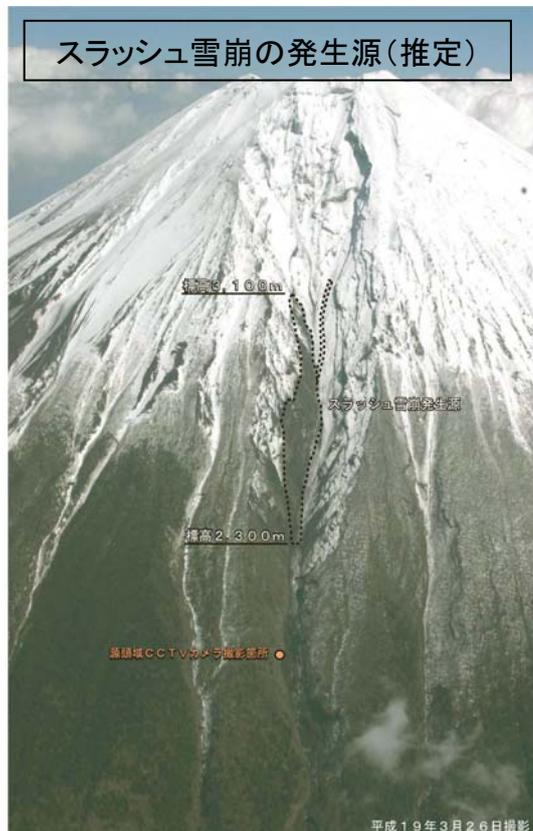
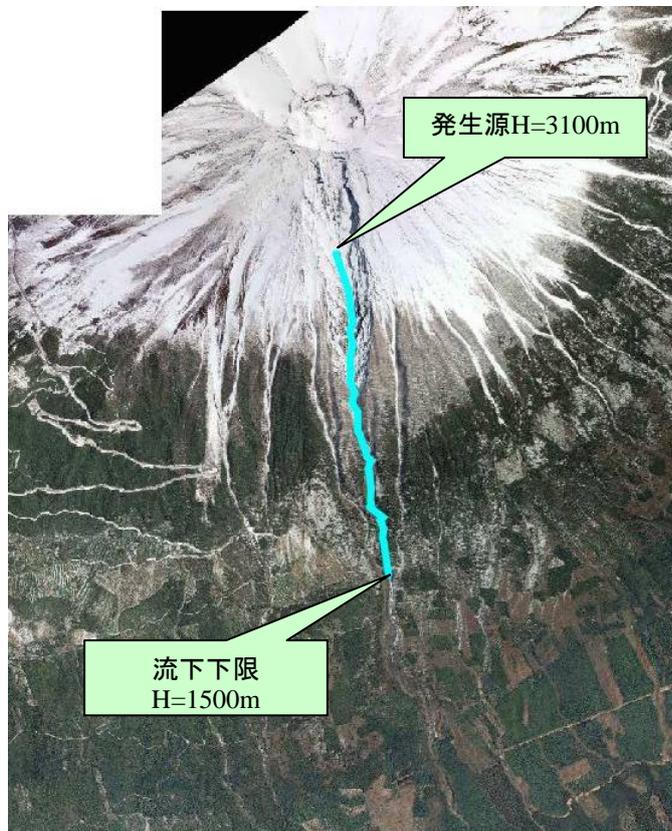


スラッシュ雪崩の発生状況(8時46分)



スラッシュ雪崩の発生状況(11時22分)

今回大沢崩れにおいて発生したスラッシュ雪崩の発生源は標高3100m～2300m付近、また流下下限については標高1500m付近と想定されます。



スラッシュ雪崩の体積の試算

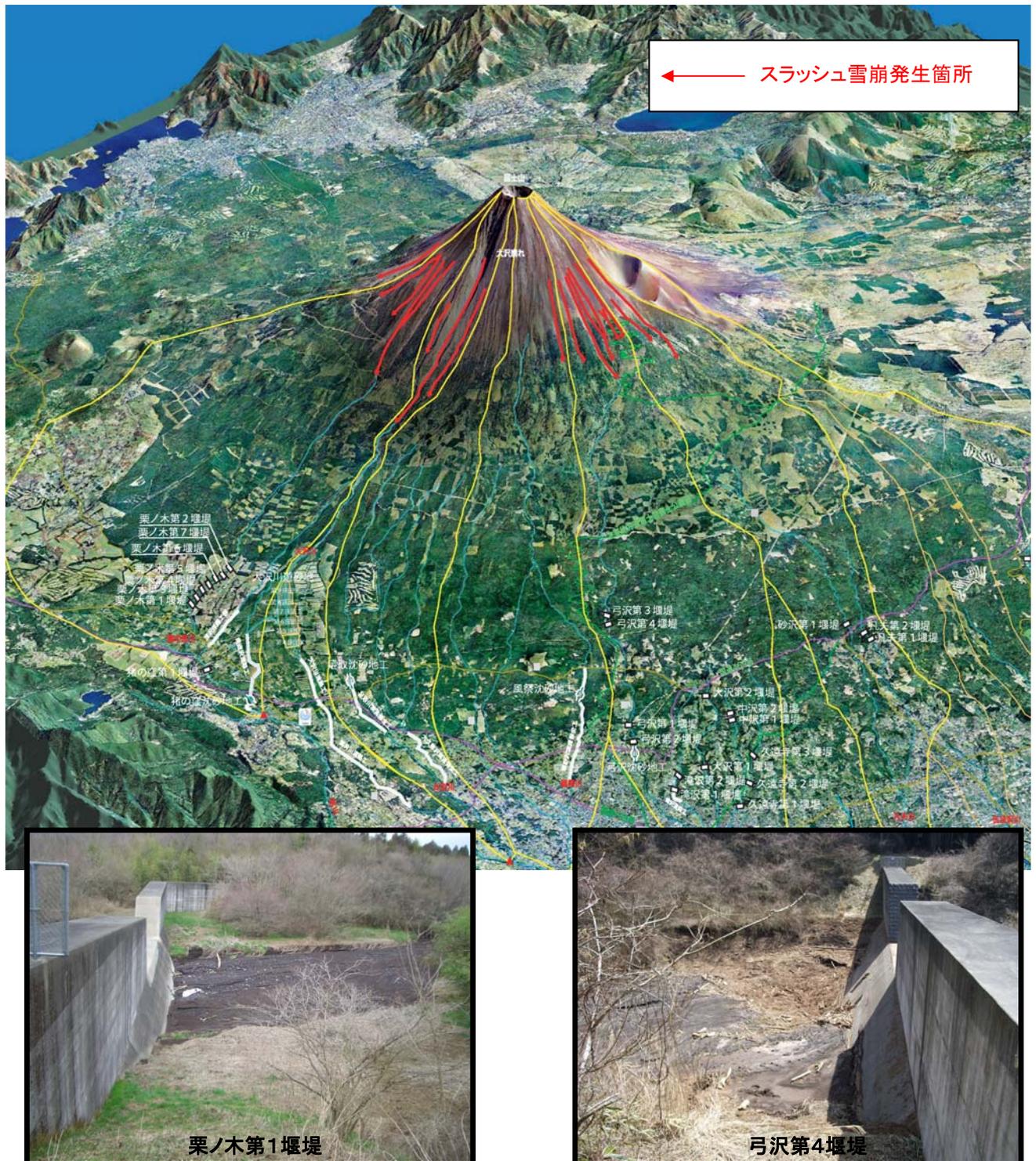
大沢源頭域CCTVカメラ映像より、今回のスラッシュ雪崩について試算したところ下記のような結果となりました。

大沢崩れスラッシュ雪崩の流下速度と体積

| | 先頭部速度(km/h) | 通過体積(m ³) |
|-----|-------------|-----------------------|
| 第1波 | 60 | 38,600 |
| 第2波 | 84 | 49,700 |
| 第3波 | 38 | 11,200 |

※スラッシュ雪崩には空隙が多く含まれるため実際の通過体積は見かけの半分程度と推定される。

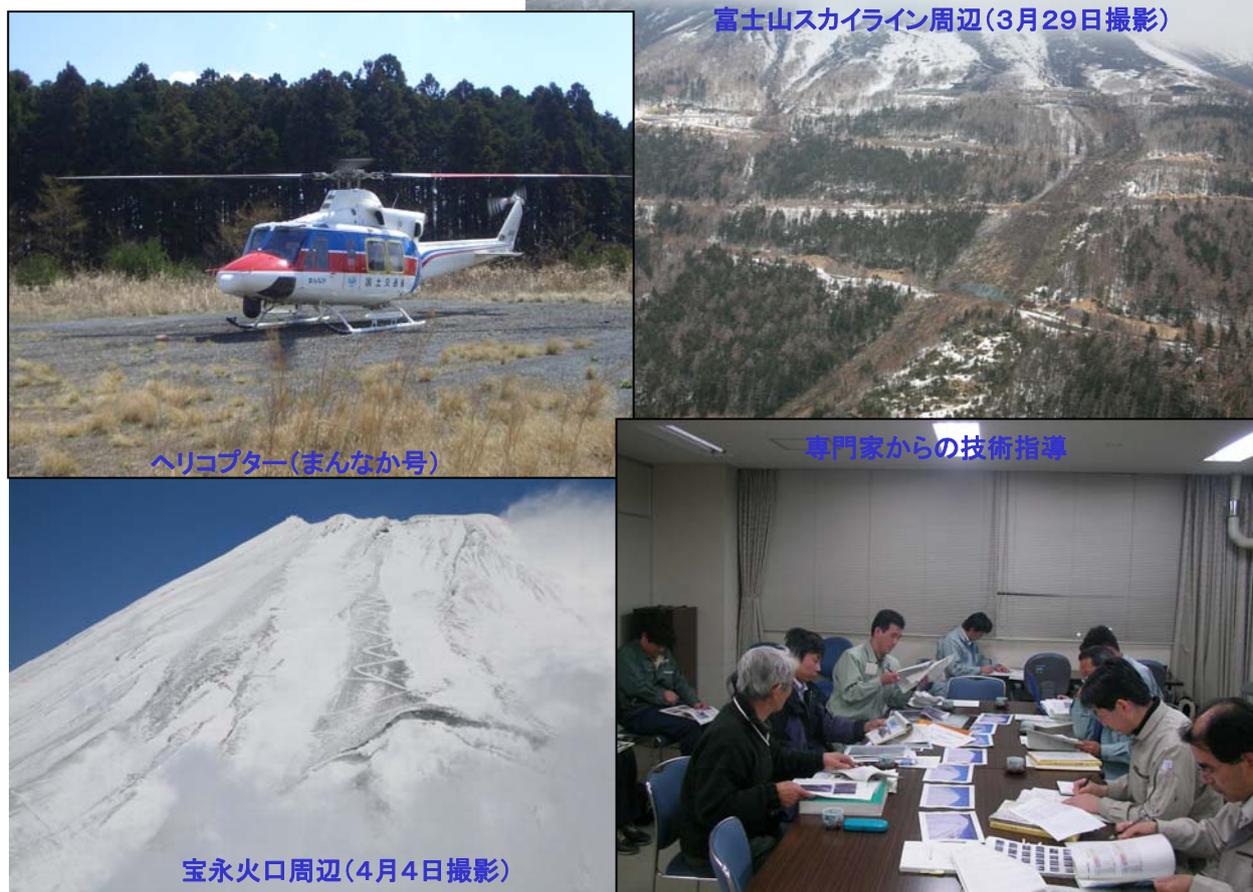
6. スラッシュ雪崩発生溪流の既設施設



今回スラッシュ雪崩が発生した溪流には、いずれも砂防施設が整備されており、今後土砂が流下した場合に直ちに被害を及ぼす可能性は低いと考えられます。

7. 専門家の所見(要旨)

富士砂防事務所では、3月29日及び4月4日に雪崩専門家とともにヘリコプター（中部地方整備局まんなか号・近畿地方整備局きんき号）による上空からの富士山南西野溪を中心とした調査を行いました。



専門家の所見

- 今回の雪崩は、スラッシュ雪崩とみられる
- スラッシュ雪崩は、おおむね標高2000m付近で停止している
- 直ちに下流へ大きな危険を及ぼす可能性は低い
- 5月頃までは同様の現象が起こる可能性があり、注意が必要である

8. 富士砂防事務所の対応経過

富士砂防事務所の対応は次のとおりです。

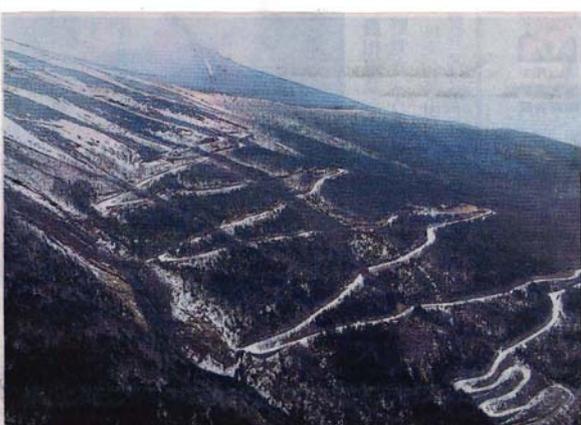
| 日付 | 富士砂防事務所の対応 |
|-------|---|
| 3月25日 | 大沢崩れ源頭域監視カメラにてスラッシュ雪崩を観測→記者発表 |
| 3月26日 | 大沢崩れの空中写真撮影の実施 |
| 3月29日 | 雪崩専門家及び富士土木事務所と合同でヘリコプターによる上空からの調査を実施(1回目) |
| 4月3日 | 大滝現地調査を実施 |
| 4月4日 | 雪崩専門家とともに、ヘリコプターによる上空からの調査を実施(2回目) 雪崩専門家及び富士土木事務所と合同で富士山スカイライン周辺の調査を実施 |

9. 今後の予定

- スラッシュ雪崩の現地調査及び解析の実施
- 監視カメラにて記録されたスラッシュ雪崩映像の解析

10. 報道状況

静岡新聞 平成19年3月26日(夕刊)



土砂崩れで寸断された富士山スカイライン＝27日午後1時半ごろ、富士宮市の富士山（本社へリ「ジェリコ1号」から）

富士山スカイライン 大規模な土砂崩れ

スカイラインの上方から土砂が流れた痕跡が複数確認できる。五合目のレストハウスにも土砂が覆いかぶさっている模様。

県富士土木事務所によると、二十四日に除雪作業が行われた際には現場から土砂崩れの報告はなかったとみられる。けが人などの情報は入っていないという。スカイラインは積雪と凍結のため、四口二合目―新五合目、十月下旬まで閉鎖している。同事務所は閉鎖解除の時期に影響がないかなど、現地の確認を急ぐ。



宝永山
五合目駐車場
レストハウス付近
土砂崩れ
富士山スカイライン

静岡新聞 平成19年3月28日(朝刊)



富士山スカイライン

総合指導センター 流失

県は十九日、富士山スカイラインの土砂崩れの被災状況を調査した。二十八日に職員が徒歩で調査したところ、新五合目から下方に三、四キロの区間で、十四所土砂の流出が確認された。新五合目にある富士山登山センターは基礎の調査が完了している。流出した土砂量は約一萬立方メートルと推定されている。

県は十九日、富士山スカイラインの一部を掘削し、立方計を測定、被災箇所を把握している。被災箇所は、五合目から新五合目にかけての区間で、土砂が崩れ落ちた。土砂が崩れ落ちた箇所は、五合目から新五合目にかけての区間で、土砂が崩れ落ちた。土砂が崩れ落ちた箇所は、五合目から新五合目にかけての区間で、土砂が崩れ落ちた。

また、新五合目のレストハウスにも土砂が流入している。土砂が崩れ落ちた箇所は、五合目から新五合目にかけての区間で、土砂が崩れ落ちた。

静岡新聞 平成19年3月30日(朝刊)

03-25-07 08:46:15
源頭部調査工事現場

03-25-07 08:46:12
源頭部調査工事現場

03-25-07 08:46:14
源頭部調査工事現場

富士山大雪崩とらえた 富士砂防

富士山南麓土砂崩れの同発時、富士山南麓に土砂が崩れ落ち、登山道が寸断された。富士砂防は、土砂崩れの発生を抑制するための対策を講じている。

富士山南麓土砂崩れの同発時、富士山南麓に土砂が崩れ落ち、登山道が寸断された。富士砂防は、土砂崩れの発生を抑制するための対策を講じている。

